糸島人 Itoshima Bito vol.10

15年間、地道なボランティア活動を続ける酒井さん

ボランティアの力が、市民を・事業者を・まちを変える

「ごみゼロ青春探検隊いとしま」呼びかけ人
酒井 忠彬（ただあき）さん（神在／75歳）

大阪から糸島へ移り住んで15年。カンカン照りの夏の日も、寒風吹きすさぶ冬の日も、そこにごみがある限り、ほぼ毎日、朝6時から市内の駅周辺を皮切りに美化清掃点検活動を続ける。「この活動を始めたころに比べると、市民のごみに対する関心は確実に変わった」。

現在、酒井さんの活動の趣旨に共感し、市内各地で美化清掃点検活動をするメンバー（探検隊ではみんな「呼びかけ人」という）は約40人。全員で集まることはなく、呼びかけ人が、それぞれの志と思いを実現する活動を行う。根底では「心と心の契約」という信頼関係でつながっているという。

松下幸之助氏に学んだ社会貢献・奉仕の精神

現役時代は松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）に勤務。松下幸之助氏から「商品をつくる前に人をつくる」ことのたいせつさを肌で学んだことが、今の社会貢献・ボランティア活動の原点となった。「いい市民が増えれば、いい市になる」。この基本理念を貫くことで、ぶれることなく活動を継続できるそうだ。

この理念に基づき、ごみ拾いとともに、週に1回は小学校の正門に立ち、地域の人と一緒に児童に声かけ・あいさつをする運動を行っている。

「子どもたちには、小さいころから最低限のマナーを身に付けるとともに、自分のまちに誇りと愛着を持ってほしい。私たちは、敗戦後復興を果たし、物質的な豊かさを手に入れたが、心の豊かさはどうか。今こそ"感謝""相互扶助"の精神が必要とされており、これこそが少子高齢・人口減社会への備えになるはず」。

彼らが大人になったとき、まち・人が支え合い、つながり合う社会になることを切に願いながら、健康が続くまで、呼びかけ人らと笑顔で、今日も、明日も、活動を続ける。

台風15号が接近中で小雨交じりのこの日も、波多江小学校で声かけ・あいさつ運動。子どもたちも酒井さんと気さくにあいさつを交わす

始業前に児童と行う校内の清掃活動。環境美化への関心は着実に根付いてきている

呼びかけ人たちと雷山川の川岸を清掃。ビニール傘、空き缶、紙くずなど、まだまだ散乱している

ITOSHIMA INCIDENTS

山内恵介さん、1日消防署長に

筑前前原駅周辺で市民へ啓発活動

糸島市出身である演歌界の貴公子・山内恵介さん（糸島ふるさと大使）が、9月16日、1日消防署長に就任しました。山内さんは、消防隊員らに「毎日安心して生活できるのはみなさんのおかげです。特に今年は暑かったので大変でしたね」と、優しい人柄が溢（あふ）れる感謝と労（ねぎら）いの言葉をかけていました。

筑前前原駅周辺で救急車の適正利用の啓発活動などを行った後、市民の熱い声援に快く応え、新曲『冬枯れのヴィオラ』を披露してくれました。

爽やかな笑顔で啓発活動を行う山内恵介さん

大きな枝豆を探そうと、必死に葉をかき分ける子どもたち

採れたての枝豆をいただきます

緑の中でビアファーム開催

自分たちの手で枝豆を収穫し、その場で食べることができるビアファームが9月23日、二丈松末で開催されました。

会場となった4反の畑には、びっしりと枝豆が植えられ、来場者たちは、できるだけ大きな実の入った枝豆を探そうと必死で葉をかき分けていました。

今年は、猛暑や突然の大雨などの影響で実りが悪かったものの、自分たちで採った枝豆をおいしそうに食べていました。

食から「いのち」を考える

食卓の向こう側　講演会を開催

志摩男女共同参画ネットワーク主催による「第7回食卓の向こう側」講演会が、9月24日、健康福祉センターふれあいで開催されました。

平成16年度から毎年開催しているもので、佐藤弘さん（西日本新聞社編集企画委員）と内田美智子さん（助産師）を招き、「食といのちのつながり」をテーマに講演していただきました。子どもの心と体の成長を大きく左右する日常の食卓。忙しい毎日でも愛情のこもったご飯を作ることのたいせつさを語られました。

「生きることは食べること」と話す内田美智子さん